

「世界の環境とユニセフ」

～ 世界の様子を知り、自分のできることを考え行動しよう ～

東京都江東区立小名木川小学校 研究代表者 追田 真澄先生
TEL 03-3644-2029 FAX 03-5690-4025

1. 学習のねらい

5年生の総合の時間を使い、前期は地域の環境調べを行った。自分たちの住んでいる町にゴミのポイ捨てが多いことや、川が汚れていること、公園以外には木が少ないことなどを知り、環境的にはあまり恵まれていないことを感じた。

後期に入り、環境という目で視野を世界に向けてみると、世界ではもっと大変な環境変化がたくさんあることを知り、温暖化などの様々な問題が起こっていることに気づいた。また、ユニセフなどが中心となって、環境をよくしていこうと活動していることも知ることができた。そんな世界の環境やユニセフのことを自分たちで調べ、世界の様子を知るとともに、自分たちの住む町や生活を振り返ることができる子の育成をめざし、この取り組みを始めた。

2. 学習計画

- ・ 6、7月（8時間）……………地域探検：公園、幹線道路、川の環境について調べる。



仙台堀川公園を探検中！

<児童の感想>

- ・ 公園：木が多く広場がある。公園の数は少ない。
- ・ 道路：街路樹がある。何のためにあるのか。
- ・ 川：ゴミが浮いていて、きれいとは言えない。魚や鳥がわりといる。

- ・ 夏 休 み ……………資料集め：自分の調べたい内容の資料を集める。

- ・ 9月（12時間）……………地域環境調べ～発表：テーマごとにグループ作り。

- ・ 10、11月（18時間） ……世界の環境に目を向け、調べる。



調べ学習を続ける

支援しているユニセフの活動なども調べる。世界の環境、ユニセフのビデオからテーマ作り。テーマごとにグループ作り。調べ、まとめ。

2月（4時間）……………発表



こんな重い水がめを持つのは大変

3. 学習実践

1. 知る

- ・ビデオを見て世界の環境問題やユニセフ活動などを知る。
「すべての人にきれいな水を」「ユニセフってなあに」
「温暖化」や「異常気象」、「汚れた水」などのビデオ



すべての人にきれいな水をビデオ学習

- ・ビデオを見ての感想や、前期に学習した地域の環境からテーマを決める。

- ・赤ちゃんが早くに死んでしまうことにおどろいた。
- ・子どもたちを救える仕組みがユニセフなんだと分かった。
- ・環境の悪さによって死んでしまう人がいることにビックリした。
- ・自分たちには飲めている水を飲めていない人たちがたくさんいることを知らなかった。
- ・水と健康が結びついていることが分かった。水によって苦しんでいる子どもたちのことをどうにかしたい。

<テーマ>

- ・ケニアの水問題とユニセフの関係
- ・世界の砂漠化
- ・水事情とユニセフ
- ・森林破壊と砂漠化問題
- ・ユニセフと世界の水の汚れ
- ・地球温暖化
- ・だんだん広がる水問題
- ・洪水を引き起こすゴミ問題
- ・ユニセフの活動

2. 調べる

- ・本やインターネット、ビデオの視聴を通し、自分のテーマに沿って調べ学習を進める。
- ・ユニセフから借りた水がめを持ち運び、実際に体験してみる。
- ・テーマをもとにグループを作り調べたことをまとめる。



ユニセフの活動を調べる

3. 発表する

- ・グループごとに3クラスに分かれ、クラスを越えた発表をし、情報の交換をする。



ユニセフの活動について発表

- ・発表会には保護者にも参観してもらい、感想や意見を聞く。

4. 実践する

- ・発表の最後に、「自分たちにできること」を加えるようにし、身近な取り組みから始めるようにする。
- ・今回作成した資料を保存し、6年生で取り上げる国際理解でのユニセフの活動などにも活用したい。

<児童の感想>

- ・ケニヤのようにきれいな水を飲めない人たちがたくさんいることを知りました。また、5分間シャワーを出しっぱなしにすると、2リットルのペットボトル22本分も無駄にすることになることを知り驚きました。だから、出しっぱなしをしないようにして無駄を減らしたい。
- ・ツバルの国の人たちは何もしていないのに、温暖化によって国が沈んでしまうのがかわいそうに思いました。だから、少しでも温暖化にならないように冷房や暖房をできるだけ使わないようにしていきたい。
- ・ゴミになるレジ袋のせいである国が洪水になることを知りました。レジ袋からマイバックを持つようにして、3R（リデュース・リユース・リサイクル）を心がけて少しでもゴミを出さないようにしたい。
- ・世界には5歳を迎えないで死んでしまう子どもがたくさんいることを知りました。大人になるまで生きさせてあげたい。だからユニセフに募金をして、困っている人を一人でも助けてあげたい。

4. 成果と課題

○身近な環境を調べ、そこから世界の環境へと目を向けて、そしてユニセフにも結びつけていくことにやや無理があるように当初は感じた。しかし、児童の調べ活動を進める中から、環境が悪くなって困っている世界の人々を支援しているユニセフの存在を知り、「ユニセフのことも調べたい」とつながることができた。

また、毎年学校で行っているユニセフ募金のこともあり、ユニセフの活動や仕組みについて知りたいと児童が考えたと推察できる。そして、自己中心的な児童が多い中、世界の中に大勢の人々が悪い環境に苦しみながら生活していることを知ることで、自分の生活を振り返ることや考えることにつながり、今後の生活や学習にも多いに生かせるのではないかと感じた。

○世界の環境や、ユニセフの活動などの大切さなどに気づくことができたが、行動となると難しい。特に自分の生活と世界の環境や人々がいろいろなことでつながっているという意識は低く、困っている人々の存在を知っても他人事のようにになってしまうのが現状である。児童にさらに意識をもたせるためにも、6年生の国際理解として「世界の同じ12歳」というテーマで学習をつなげ、実感できるようにして意識を高めていきたい。



発表し交流し合う